研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第2号

石清水型削器小考
桑波田　武志

南九州貝殻文系土器に見られる地域性について
黒川　忠広

田村式土器とその周辺（覚書）
横手　浩二郎

上野原遺跡第10地点における石材選択について
八木澤　一郎

「成川式土器」の器種組成について（予察）
－杯形土器の様相を中心に－
相美　伊久雄

古代官衙の立地
－古代の官衙は，鹿児島ではどのようなところに置かれたか－
繁昌　正幸

鹿児島県における荘園遺跡研究の現状
中村　和美

鹿児島県における古代の鍛冶遺構について
川口　雅之

墨書土器の性格
－鹿児島を例として－
坂本　佳代子・岩澤　和徳・松田　朝由

鹿児島県における中世煮炊具の一様相
上床　真

島津本家における近世大名墓の形成と特質
松田　朝由

溝状遺構の一性格
東　和幸

《実践報告》　出土木製品保存処理の現状と課題
永濵　功治

平成14年度　埋文センター年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2004. 3

『縄文の森から』第２号　　目　次

石清水型削器小考　桑波田武志 …… 1

南九州貝殻文系土器に見られる地域性について　黒川　忠広 …… 11

田村式土器とその周辺（覚書）　横手浩二郎 …… 19

上野原遺跡第10地点における石材選択について　八木澤一郎 …… 23

「成川式土器」の器種組成について（予察）　相美伊久雄 …… 29

古代官衙の立地　繁昌　正幸 …… 37

鹿児島県における荘園遺跡研究の現状　中村　和美 …… 55

鹿児島県における古代の鍛冶遺構について　川口　雅之 …… 63

墨書土器の性格　坂本佳代子・岩澤和徳・松田朝由 …… 71

鹿児島県における中世煮炊具の一様相　上床　　真 …… 81

島津本家における近世大名墓の形成と特質　松田　朝由 …… 91

溝状遺構の一性格　東　　和幸 ……109

《実践報告》出土木製品保存処理の現状と課題　永濱　功治 ……117

平成14年度　年報 ……121

研究紀要

石清水型削器小考

桑波田　武　志

Some Considerations about Iwashimizu-type Side-scrapers

Kuwahata　Takeshi

要旨

2000年に松元町宮ヶ迫遺跡の報告で設定した石清水型削器について，他遺跡の類似資料，分布状況，素材剥片，石材，加工状況等の観点から検討を行い，当該石器が剥片尖頭器を含む縦長剥片剥離システムの中に位置づけられる石器であることを再確認し，当該石器の理解を深めた。

キーワード　石清水型削器，剥片尖頭器，縦長剥片

1　はじめに

筆者は以前松元町宮ヶ迫遺跡の報告で，同遺跡で出土した縦長の剥片の縁辺に鋸歯状の剥離を施すものを，石清水型削器として型式設定をし，当該石器に着目した。そこでは当石器への着目を目的としていたため，類例の提示，検討を行っていなかった。そこで，本稿では石清水型削器の類例を提示し，若干の検討を加え，当石器の理解の一助とすることを目的とする。

2　関連資料の提示（第３～４図）

ここでは筆者が見た範囲で剥片尖頭器と縦長剥片を素材とした削器とが出土している資料を提示する。あわせて石材の状況，出土層位，年代情報等も提示する[1)]。

（１）九州の資料

①　宮崎県北方町矢野原遺跡[2)]

バイパス道路建設に伴い1992年に本調査が実施されている。削器と分類されている石器のなかに石清水型削器に該当する資料がある。「縦長剥片の一側縁，両側縁，あるいは一部に刃部が作られる」ものである。剥片尖頭器19点，縦長剥片を素材としたナイフ形石器等がみられる。石材は流紋岩が大半を占めるとのことである。

②　宮崎県北方町蔵田遺跡

バイパス道路建設に伴い1993年に本調査が実施されている。スクレイパーと分類された石器の中に石清水型削器に該当する資料がみられる。剥片尖頭器４点がみられる。石材は流紋岩が主で，他にホルンフェルス，チャート等がみられるようである。

③　宮崎県佐土原町上ノ原遺跡

東九州自動車道路建設に伴い1996年～1997年に本調査が実施されている。ＡＴ火山灰の二次堆積層の上位より石器が出土している。削器と分類されている石器のうち２点が石清水型削器に該当すると考えられる。いずれも縦長剥片の両側縁に鋸歯状の二次加工が施されている。剥片尖頭器39点，縦長剥片を素材としたナイフ形石器が多数，縦長剥片を素材とした掻器等がみられる。

④　宮崎県佐土原町下屋敷遺跡

東九州自動車道建設に伴い1997年に本調査が実施されている。ＡＴ層の上位の層より遺物が出土している。スクレイパーに分類されている石器に石清水型削器に該当する資料がみられる。縦長剥片の一側縁に刃部が形成されている。剥片尖頭器が７点出土している。剥片尖頭器製作時の縦長剥片を利用していると考えられるが，典型的なタイプではない。

⑤　宮崎県宮崎市垂水第１遺跡

市道改良工事に伴い1992年に本調査が実施されている剥片尖頭器８点に伴って石清水型削器に該当する資料が出土している。縦長剥片の片側縁に細かい加工が施されるものである。他に縦長剥片の側縁に微細剥離痕が確認される石器もいくつか確認される。

⑥　宮崎県宮崎市堂地西遺跡

学園都市建設に伴い1983年に本調査が実施されておりAT層の上位が包含層である。調整痕のみられる石刃と分類されている１点が石清水型削器に該当する。削器ではないが，同様の縦長剥片に微細剥離痕が確認される石器も１点みられる。石材は不明だが，縦長剥片の両側縁に細かい調整がみられる。他に砂岩製の剥片尖頭器が５点，頁岩，砂岩製の縦長剥片を素材としたナイフ形石器が２点みられる。

⑦　鹿児島県松元町宮ヶ迫遺跡

農道整備事業に伴い1996年～1997年にかけて本調査が実施されている。石清水型削器に該当する石器が４点出土している。頁岩，砂岩，安山岩製で，いずれも縦長剥片の両側縁に鋸歯状の二次加工が施されている。頁岩，安山岩，流紋岩製の剥片尖頭器が11点，頁岩，安山岩製の縦長剥片を素材としたナイフ形石器が６点みられる。ＡＴの二次堆積土が包含層である。

（２）韓国の資料

韓国においても剥片尖頭器と同じ層より縦長剥片を利用した削器が出土している。現時点では韓国の資料を評価するだけの資料を持ち合わせていないので，ここでは参考資料として提示する。

① 韓国・密陽古禮里遺跡

密陽ダム建設に伴い1996年に本調査が実施されている。概報で図化された資料を見ると，剥片尖頭器に伴って縦長剥片を素材とした削器が３点みられる。縦長剥片を素材とした削器は鋸刃縁石器（denticulates）と報告されている一群の一部で，縦長剥片の両側縁に刃部が形成されている。加工は一部腹面にも及んでいるようである。他の遺跡と異なりこの石器は剥片尖頭器よりもかなり大型(15cm)である。石材はホルンフェルスと安山岩が主体となっているが，石器と石材との対比関係が明確でない。包含層の下部にＡＴ降灰層準が，上部はアカホヤ火山灰層準が検出されており，遺跡の年代として20,000万年前後が推定されている。

② 韓国・垂陽介遺跡

1983年～1985年の１～４次調査，1996年の７次調査で旧石器石器群が調査されている。剥片尖頭器に伴って縦長剥片を素材とした削器が１点みられる。図面からみると，縦長剥片の両側縁に腹面からの剥離により刃部を形成している。当該石器石材は頁岩が中心となるようである。^{14}Ｃ年代測定により16,400ＢＰ，18,630ＢＰの値が得られている。なお，同一文化層より細石器も出土している。

３　分布（第２図）

韓国を除くと分布は熊本県南部～宮崎・鹿児島県を中心とした九州の南半分に偏っており，特に宮崎県に多くみられる。現在のところ北部九州には出土が認められず，九州の南半を分布の中心に持つ石器であるといえる。

なお，この分布が本来の分布を示すのかどうかについては，類例の増加を待つのはもちろん，北部九州において，石清水型削器以外の削器が存在するのか，あるいは生業に違いがあるのか等について検討する必要がある。

４　素材選択について

（１）長幅比・形状の観察（第２表，第１図）

本節では石清水型削器と剥片尖頭器，ナイフ形石器の長幅比を比較し，特徴の抽出を図る。計測にあたっては完形品及び先端部のみが欠損しており，無理なく全長が復元可能な資料を使用した。計測数値は報告書に記載のあるものについてはその数値を，ないものについては実測図から起こしたものである。

① 蔵田遺跡

対象とした剥片尖頭器は２点で，長幅比は2.4，2.7である。計測した２点はいずれも片側縁のみに二次加工のみられるタイプである。石清水型削器の長幅比は2.4，2.7，2.8で，資料は少ないものの，剥片尖頭器の長幅比との差はみられない。石清水型削器の素材剥片はいずれも側縁が平行であり，剥片尖頭器には適さない。

② 上ノ原遺跡

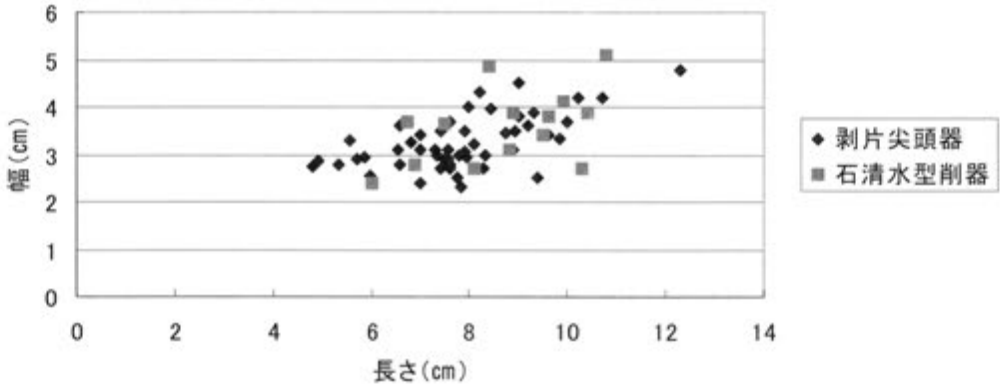
対象とした剥片尖頭器は27点で，長幅比は1.7～3.4である。2.4付近が平均となる。剥片尖頭器は先端部両側縁に加工のないものと，片側縁のみに二次加工のみられる２つのタイプがある。石清水型削器の長幅比との差はみられないが，側縁が平行であるため，剥片尖頭器には適さない素材である。

③ 下屋敷遺跡

対象とした剥片尖頭器は５点で，長幅比は2.2付近が平均となる。石清水型削器の長幅比は1.9で，やや剥片尖頭器に比して幅広である。剥片尖頭器は先端部両側縁に加工のないものと，片側縁のみに二次加工のみられる２つのタイプがある。素材剥片が厚く，剥片尖頭器に適さない素材である。

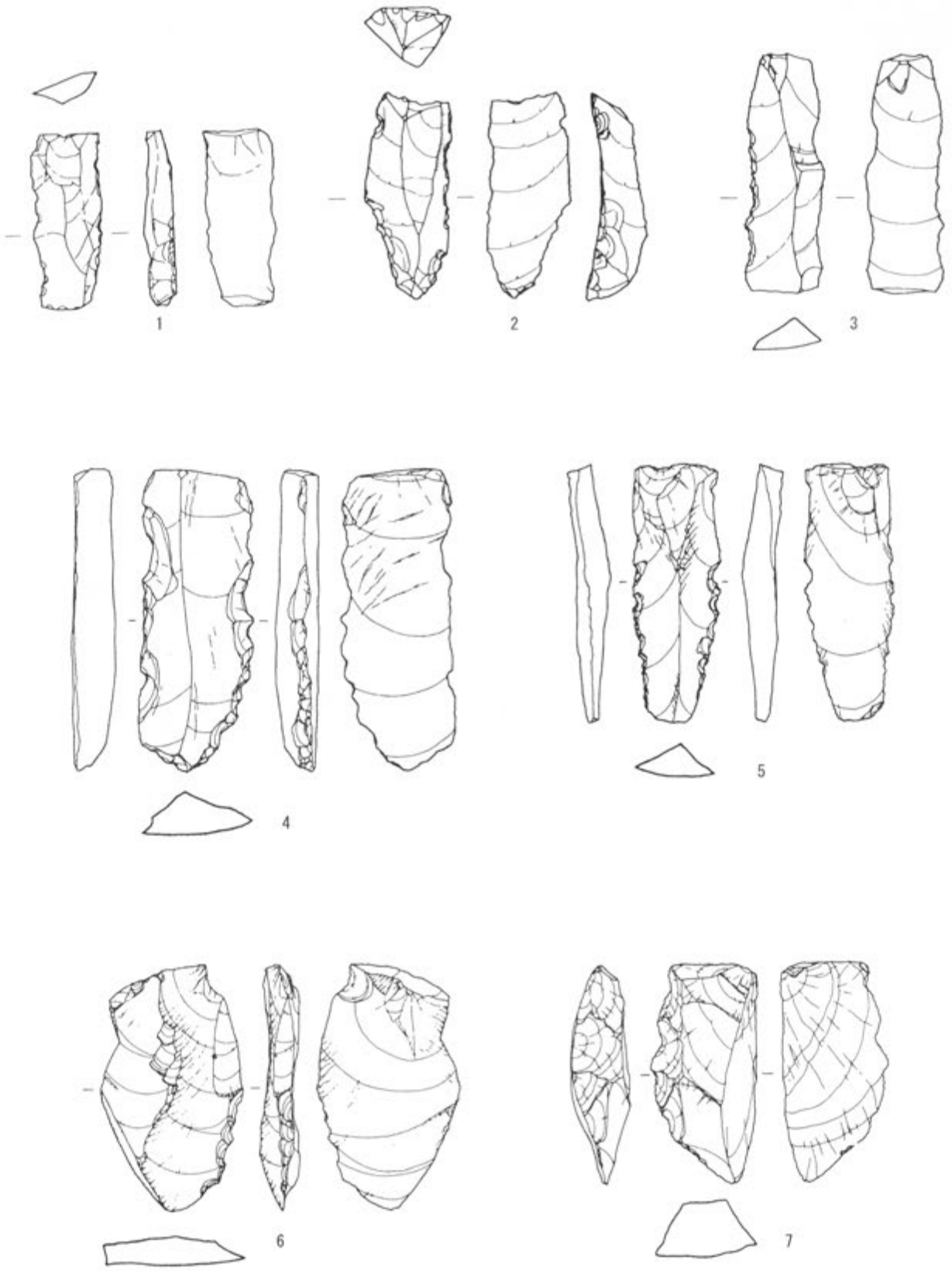
④ 垂水第１遺跡

対象とした剥片尖頭器は５点で，長幅比は２～2.8であ



第１図　剥片尖頭器と石清水型削器の比較

第２図　遺跡位置図



（1～3蔵田遺跡，4～5上ノ原遺跡，6～7下屋敷遺跡）　Scale=1/2

第3図　石清水型削器(1)

る。剥片尖頭器は先端部両側縁に加工のないものと，片側縁のみに二次加工のみられる２つのタイプがある。石清水型削器の長幅比は2.1と2.4であまり差はないが，両側縁が平行であったり，先端が広がったりと，剥片尖頭器には適さない素材である。

⑤　堂地西遺跡

対象とした剥片尖頭器は５点で，長幅比は2.4～2.9である。剥片尖頭器はいずれも片側縁のみに二次加工のみられるタイプである。石清水型削器の長幅比は2.3で剥片尖頭器とあまり差がないが，側縁が平行であるため，剥片尖頭器には適さない素材である。

⑥　宮ヶ迫遺跡

対象とした剥片尖頭器は６点で，長幅比は1.8～2.9である。石清水型削器の長幅比は2.5，2.8，3.8とばらつきがあり，剥片尖頭器に比してやや大型である。先細りの剥片を素材としたものも１点みられるが，長幅比3.8で細すぎるため剥片尖頭器には適さなかったものと思われる。

（２）小結

長幅比の観点からは個々の遺跡において剥片尖頭器と大きな差はみられない。ただし，それぞれの器種の長幅比を全体的に観察すると（第５図），石清水型削器にややばらつきが目立つ。これは石清水型削器が剥片尖頭器ほど形状に強い規制がかかっていないことを示すものであろう。

５　刃部加工

（１）観察

①　蔵田遺跡

１は剥片の腹面から右側縁のみに二次加工を施している。下半は比較的角度の急な加工となっている。

２は剥片の腹面から両側縁の下半に急角度の加工がみられる。右側縁にも細かい剥離がみられる。剥片の頭部は掻器としての加工が施されているようである。

３は剥片の左側縁中心部付近に腹面からの加工がみられる。

②　上ノ原遺跡

４は剥片の腹面から両側縁に二次加工を施し，刃部を形成している。二次加工は右側縁が下2/3に，左側縁が打面・先端部近くを除くほぼ全てに確認される。左側縁の二次加工は比較的大型の剥離が施されている。

５は剥片の腹面から両側縁に細かい二次加工を施し，刃部を形成している。二次加工は両側縁ともに下半部に確認される。

③　下屋敷遺跡

６は剥片の腹面から右側縁の下半のみに二次加工を施し，刃部を形成している。

７と８は剥片の腹面から左側縁のみに二次加工を施し刃部を形成している。７は大きめの剥離を，８は小さい剥離を施している。

④　垂水第１遺跡

９，10いずれも剥片の左側縁のみに刃部が形成され，腹面と背面の両方に細かい加工が施されている。

⑤　堂地西遺跡

11は剥片の腹面から両側縁に二次加工を施し，刃部を形成している。二次加工は左側縁[3]が中位に，右側縁が下半にそれぞれ確認できる。

⑥　宮ヶ迫遺跡

12は剥片の腹面から両側縁に二次加工を施し，刃部を形成している。二次加工は右側縁が下半部に，左側縁が上半に確認される。その他にも両側縁に微細な剥離痕が所々観察される。

13は剥片の腹面から両側縁に細かい二次加工を施し，刃部を形成している。右側縁は全体に，左側縁は中間に観察される。左側縁の先端部腹面にも細かい剥離痕が観

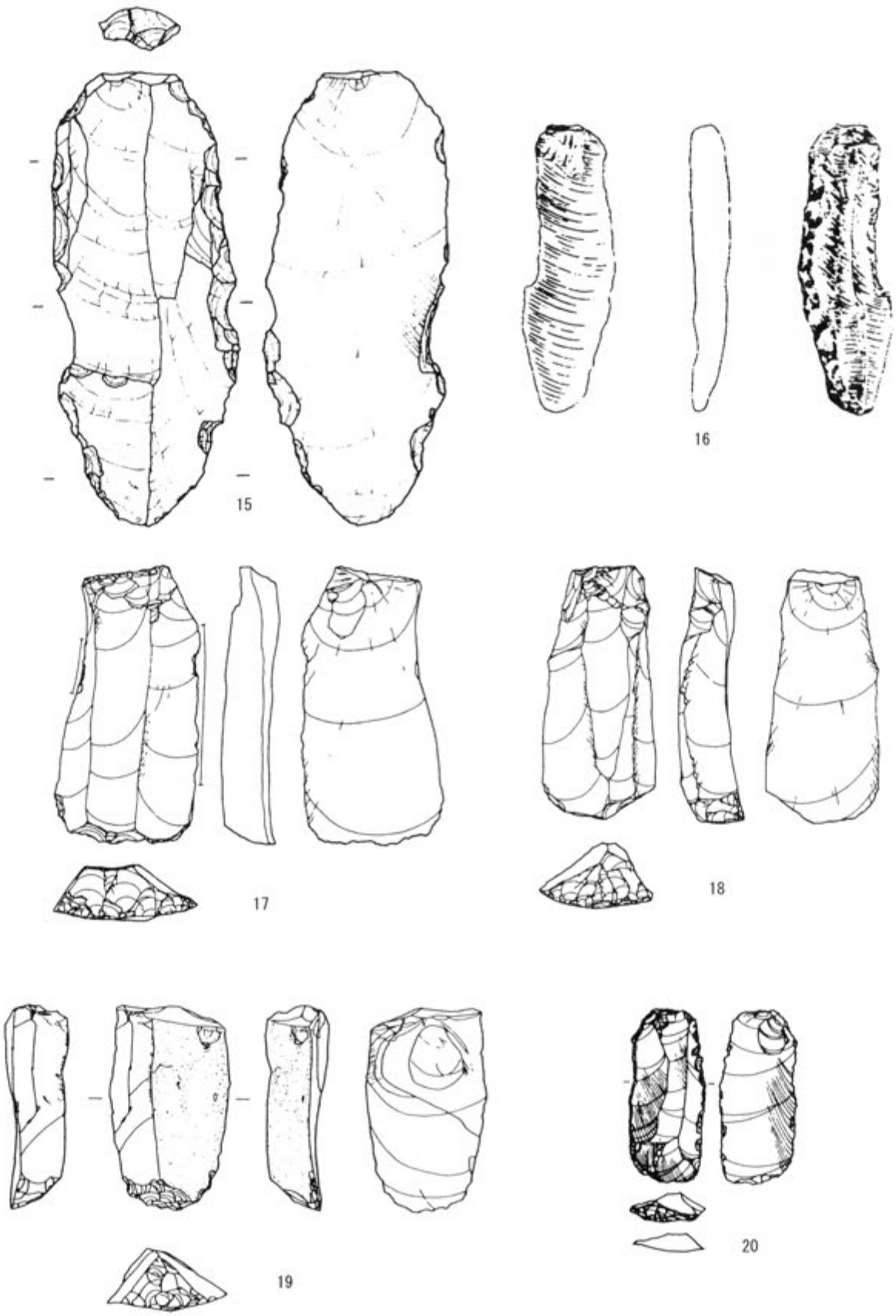
番号	左側縁																	右側縁																
	側縁全体				側縁中央				側縁上半				側縁下半				腹面への加工	側縁全体				側縁中央				側縁上半				側縁下半				腹面への加工
	大剥離		小剥離		大剥離		小剥離		大剥離		小剥離		大剥離		小剥離			大剥離		小剥離		大剥離		小剥離		大剥離		小剥離		大剥離		小剥離		
	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密		粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	粗	密	
1			○																	○													○	
2											○					○																	○	
3								○																										
4		○																															○	
5														○																			○	
6																																	○	
7		○																																
8				○																														
9								○									○																	
10								○									○																	
11			○																														○	
12												○									○													
13								○									○				○													
14																					○													
15		○															○		○															○
16				○																								○						

※粗密の判断は概ね剥離の重なりの有無を基準とする

第１表　刃部観察表

（8下屋敷遺跡，9～10垂水第1遺跡，11堂地西遺跡，12～14宮ヶ迫遺跡）　Scale=1/2

第4図　石清水型削器(2)



（15古禮里，16垂揚介，17～18上ノ原，19垂水第１，20枝去木山中）　Scale=1/2

第５図　参考資料

遺跡名	図番号	石清水型削器				(参考)剥片尖頭器（平均）			
		長さ	幅	長幅比	石材	長さ	幅	長幅比	石材
蔵田	1	6	2.4	2.5	流紋岩	9.7	3.8	2.6	流紋岩，ホルンフェルス
	2	6.9	2.8	2.5	流紋岩				
	3	8.1	2.7	3.0	流紋岩				
上ノ原	4	10.4	3.9	2.7		7.3	3.1	2.4	
	5	8.8	3.1	2.8					
下屋敷	6	8.4	4.85	1.7		7.6	3.5	2.2	
	7	7.5	3.65	2.1					
	8	6.72	3.7	1.8					
垂水第１	9	9.9	4.1	2.4	流紋岩	8.3	3.4	2.4	流紋岩，砂岩
	10	10.8	5.1	2.1	流紋岩				
堂地西	11	8.9	3.9	2.3	―	8.8	3.5	2.5	
宮ケ迫	12	9.5	3.4	2.8	硬質頁岩	7.5	3.3	2.3	
	13	10.3	2.7	3.8	硬砂岩				
	14	9.6	3.8	2.5	安山岩				
古禮里	15	15.4	6.2	2.5	―	7.9	2.9	2.7	
垂楊介	16	10	4	2.5	―	7.6	3.4	2.2	

（単位：cm）

第２表　石清水型削器と剥片尖頭器観察表

察される。

14は剥片の腹面から右側縁に細かい二次加工を施し，刃部を形成している。左側縁の状況は欠損して不明である。

（２）小結

刃部形成のための二次加工は基本的に腹面のみから施されている。刃部は両側縁，片側縁の２通りの設定がある。加工部位は縁辺全体と，縁辺の一部等様々であり，特徴を見いだせない。

６　石材

（１）観察

①　上ノ原遺跡

剥片尖頭器の素材は流紋岩とホルンフェルスがほとんどで，一部砂岩，チャートがみられる。石清水型削器はいずれもホルンフェルスで，石材において差はみられない。

②　下屋敷遺跡

剥片尖頭器の素材は流紋岩，ホルンフェルス，砂岩である。石清水型削器は流紋岩とホルンフェルスで，石材において差はみられない。

③　垂水第１遺跡

剥片尖頭器の素材は砂岩と流紋岩である。石清水型削器は，流紋岩が用いられており，石材利用において特に差はみられない。

④　宮ヶ迫遺跡

剥片尖頭器の素材は硬質頁岩，シルト質頁岩，安山岩等である。石清水型削器の石材は硬質頁岩，硬砂岩，安山岩であり，石材利用において特に差はみられない。

（２）小結

筆者は石清水型削器製作を剥片尖頭器に代表される縦長剥片剥離システムの中で生じるものと理解している。完全に証明するためには接合資料が不可欠であるが，可能性の一つを探る手だてとして，石清水型削器と剥片尖頭器の石材について確認してみた。報告書からはそれぞれの器種ごとの石材が判断できない場合が多く，資料の提示は４例にとどまったが，どの遺跡でも両石器の石材間に使い分けがあるとの記載はなく，一連の剥離システムの中で生じた素材を使用している可能性が高いと考えている。

７　まとめ

周知のとおり剥片尖頭器は素材の形状を大きく変えずに製作される。上掲の遺跡の剥片尖頭器もこれにもれず，先端部の作り出しにあたっては先細り剥片の側縁をそのまま利用するものと，片側縁のみに二次加工を施して先端部を形成する２通りがみられる。石清水型削器の素材としては主に側縁が平行なものや，厚みのあるものが選択されており，形状的に剥片尖頭器に加工するには何らかの規制がかかった素材が選択されている。

刃部は一側縁に形成されるものと二側縁に形成されるものとの２種類があり，基本的に腹面から背面への剥離により形成されている。刃部形成の剥離にも比較的大きな剥離から細かい剥離までバリエーションが認められた

石材選択については剥片尖頭器と特に差は認められなかった。上掲した遺跡においては縦長剥片を剥離した石核が認められないため，素材となる剥片が遺跡内で剥離されたものか，持ち歩かれていたものかを確定できない

が，いずれにしろ剥片尖頭器と石清水型削器の間には素材となる石材の隔たりはないと言える。

以上形態，刃部加工，石材と３つの観点から観察を行ったが，筆者は剥片尖頭器と石清水型削器の２つの器種は同じ剥離システムの中で生まれたものであり，素材の形状に応じて器種選択を行っている石器であると理解している。この定義に当てはめると，ある程度形態にバリエーションが生じるが，石清水型削器としては資料１～５のような両側縁が平行になる縦長剥片を素材としているものを典型としたい。

なお，現在のところ分布が南九州に偏っているが，韓国でも類似資料が確認されることから，これらについての評価を今後検討していく必要がある。さらに，この石器が当該期の行動の中にどう位置づけられていくのかについても興味を持っていきたい。

本稿をまとめるにあたり，宮田栄二氏に多くのご教示を得た。また，杉原敏之氏，志賀智史氏，岩谷史記氏，松本茂氏には各県の情報をご教示頂いた。記して感謝したい。

追録

本稿をまとめる過程で，縦長剥片を素材とした掻器の存在も気になった。佐賀県唐津市枝去木山中遺跡，熊本県人吉市狸谷遺跡，宮崎県垂水第１遺跡，同上ノ原遺跡，同蔵田遺跡等で確認された。同じ縦長剥片剥離システムの中に位置づけられる可能性のある石器として，石清水型削器同様，今後注目していく必要があると考える。

【　註　】

1　このほかにも佐賀県枝去木山中遺跡，大分県百枝遺跡C地区，熊本県天道ヶ尾遺跡(Ⅱ)，大丸・藤ノ迫遺跡，白鳥平A遺跡，宮崎県長薗原遺跡，鹿児島県小牧３A遺跡等においても縦長剥片剥離の中で生じる不定形剥片を利用したと思われる削器がみられたが，石清水型削器としては両側縁が平行になる縦長剥片を典型と考えているため，対象資料から外した。また，韓国石壯里遺跡でも縦長剥片を素材とした削器がみられるが，出土層位と遺物との対比ができなかったため，対象資料から外した。

このほかにも当該石器の設定の根拠となった熊本県人吉市石清水遺跡や，鹿児島県横井竹ノ山遺跡でも出土がみられるが，未報告のため分布図だけの掲載としている。

2　写真資料のみの報告であるため長幅比等の細分析の対象からは除外した。

3　打面を上位にし，背面側から観察した場合の上下左右を示す。

【参考文献】

LEE,Yung-jo　HA,Moon-sig　YUN,Yong-hyun　1994『Microblade Core in Korea-with special reference to the tool-making techniques of suyanggae』

朴英哲・徐姈男/小畑弘己・訳　1998　「韓国・密陽　古禮里旧石器遺跡の発掘調査概要」『旧石器考古学』57

徐姈男・金惠珍・張龍俊　1999　「慶南密陽市古禮里遺蹟後期舊石器文化」『嶺南地方의舊石器文化』

鹿児島県立埋蔵文化財センター　1996　『小牧３A遺跡』　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(15)

唐津市教育委員会　1990　『枝去木山中遺跡』唐津市文化財調査報告書第39集

木崎康弘　2000　「旧石器時代(九州)」『考古学ジャーナル2000年６月臨時増刊号』ニュー・サイエンス社

熊本県教育委員会　1986　『大丸・藤ノ迫遺跡』　熊本県文化財調査報告第80集

1990　『天道ヶ尾遺跡（Ⅱ）』　熊本県文化財調査報告第111集

龍田考古会　2001　『シンポジウム 海峡を越えて-原の辻以前の先史時代の人と交流』

宮崎県教育委員会　1985　『堂地西遺跡』　宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集

1995　『矢野原遺跡　蔵田遺跡』一般国道218号椎畑バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

宮崎県埋蔵文化財センター　2002　『下屋敷遺跡』　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第56集

2002　『長薗原遺跡』　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第57集

2002　『上ノ原遺跡』　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第58集

宮崎市教育委員会　1994　『垂水第１遺跡』　市道久保垂水線改良工事に伴う発掘調査報告書

松元町教育委員会　2000　『宮ヶ迫遺跡』　松元町埋蔵文化財発掘調査報告書(３)

【挿図出典】

第３図１～３　宮崎県教育委員会　1995『矢野原遺跡　蔵田遺跡』

４～５　宮崎県埋蔵文化財センター　2002『上ノ原遺跡』

第３図６～７　宮崎県埋蔵文化財センター　2002『下屋敷遺跡』

第４図８　〃

第４図９～10　宮崎市教育委員会　1994　『垂水第１遺跡』

第４図11　宮崎県教育委員会　1985　『堂地西遺跡』

第４図12～14　松元町教育委員会　2000　『宮ヶ迫遺跡』

第５図15　龍田考古会　2001　『シンポジウム 海峡を越えて』

第５図16　朴英哲・徐姈男/小畑弘己・訳　1998　「韓国・密陽　古禮里旧石器遺跡の発掘調査概要」『旧石器考古学』

57

第５図17～18　宮崎県埋蔵文化財センター 2002『上ノ原遺跡』

第５図19　宮崎市教育委員会　1994　『垂水第１遺跡』

第５図20　唐津市教育委員会　1990　『枝去木山中遺跡』

その他の図，表は筆者作成